



# テンプリドSC クロオオアリに対する野外試験(アメリカの事例)

## 試験目的

テンプリドSCの樹木に生息するクロオオアリに対する効果

## 試験

### 試験方法

クロアリの被害を受けている樹木にテンプリドSCを散布し、散布前と散布後の、一定時間当たりの樹木を上下する職蟻の数から防除率を計算した。同様に、別の被害木でシフルトリン製剤(10%フロアブル)とイミダクロプリド製剤(20%フロアブル)の試験を行い、結果を比較した。

### ▶ テンプリドSCの散布箇所:

- クロアリの被害を受けている樹木: 地面から1.5mの高さの樹木表面
- 被害を受けている樹木の周囲土壌: 樹木を中心とした半径1.5mの範囲
- 蟻道: 蟻道を中心にして30cm幅で散布(樹木から3m先まで)

### ▶ テンプリドSCの希釈倍率と散布量:

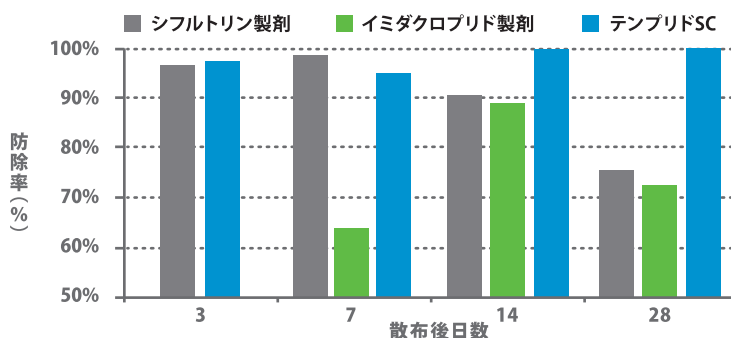
- 樹木と樹木周り: 樹木1本あたり、200倍希釈で合計約2L
- 蟻道: 400倍希釈で、200mL/m<sup>2</sup>

- 注) 対照剤も同様の希釈倍率とした
- シフルトリン製剤: 200倍、400倍
  - イミダクロプリド製剤: 200倍、400倍



## 結果

- シフルトリン製剤は効果が速く現れたが、14日目以降は効果が減少した。
- イミダクロプリド製剤は効果発現までに7日以上かった。
- テンプリドSCは効果が速く現れ、その効果は1カ月弱継続した。



## 考察

テンプリドSCは、クロオオアリに対して即効性と残効性の両方の効果を示した。  
 注) 米国における試験結果。日本国内では樹木保護の目的で本剤を使用しないこと。

